



Komatsu 高校

学校通信

令和7年

11月

マンスール・バーラミ ～逆境を笑顔に変えたテニス界の魔術師～

特活課 茂松 克明

マンスール・バーラミは、テニス界において「唯一無二のエンターテイナー」と称される伝説的存在です。1956年にイランで生まれた彼は、ボールボーイとしてテニスに触れ興味を持ちました。貧しい環境だった彼は、幼少期、テニスラケットを持つことができず、古いフライパンや自作の木製ラケットで練習したという逸話は、今日でも彼の象徴的なストーリーとして語られています。貧困の中でもテニスへの情熱だけは揺らぐことがなく、彼は独学で驚異的なボールテクニックを磨き上げていきました。

しかし、その才能が若くして世界に知られることはませんでした。1970年代～80年代初頭、イラン国内は政治的な混乱と革命の影響でスポーツ活動に大きな制約がかけられ、バーラミは国外での大会出場を許されない時期が長く続きます。革命後はテニスそのものが「西洋的」と見なされ、プレー機会が奪われた時期もあり、彼はキャリアの最も重要な年代を試合に出られずに過ごさざるを得ませんでした。この逆境は、彼の才能を世界に示すはずの黄金期を丸ごと奪うことになりました。それでもバーラミは決してテニスを諦めませんでした。亡命を決意し、ヨーロッパに渡った彼は、自由にプレーできる環境を手に入れます。しかしその時すでに30代。通常ならキャリアの下降期に入る年齢でしたが、バーラミはむしろここから唯一無二の存在へと進化していきます。プロツアーでの実績こそ政治情勢に阻まれましたが、誰にも真似できない技巧と天性のユーモアセンスを武器に、エキシビションマッチのスターとして世界中のファンを魅了しました。

彼の代名詞であるノールックショット、足の間を通す「トゥイーナー」、観客を巻き込んだパフォーマンス、ラリーの最中に相手を笑わせる機転は、単なる技術の披露ではなく“テニスの楽しさ”そのものを観客に届ける芸術とも言えます。全仏オープンの「レジェンド・トーナメント」では毎年のように満員の観客を沸かせ、彼の試合は「お金を払ってでも見たいショー」と語られるほどです。

現在のバーラミは、テニスの歴史において特異でありながら非常に重要な存在です。政治に翻弄され、競技者として本来踏むはずだった栄光のステージを奪われながらも、彼は自分のテニスを楽しむ心を失いませんでした。その結果、彼は勝敗やランキングではなく、スポーツがもたらす“喜び”を世界中に伝える象徴となりました。

バーラミは、生で見たテニス選手の中で最も衝撃を受けた一人です。現在でもシニアツアー、四大大会のエキシビションマッチ等でプレーしており、YouTubeなどでそのプレーを見ることができます。

【12月行事予定】

日	曜	行	事
1	月	期末考査	(～12/5)
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		
6	土		
7	日		
8	月	校納金引落	
9	火	テーブルマナー講習	(3-4) ③～
10	水	クラスマッチ	
11	木		
12	金	クラスマッチ予備日 全校集会（保健相談課）40分授業	
13	土	食物調理技術検定準1級（2-4）午前中	
14	日	家庭科技術検定：保育準1・1級	
15	月	40分授業	
16	火	朝清掃 火④⑤⑥⑦の40分授業 進路説明会⑥⑦1・2年生 保護者懇談会(13:15～)学校環境衛生検査②(14:00～)	
17	水	朝清掃 水③④⑤⑥40分授業 保育の魅力発信授業（2-4）①② 保護者懇談会(13:15～) 課題研究「兎之山実習」⑤	
18	木	朝清掃 保護者懇談会(13:00～)	
19	金	表彰伝達 終業式 保護者懇談会(12:00～)	
20	土	家庭科技術検定：洋服1級（3-4） 大学入学共通テストファイナル(3年)	
21	日		
22	月		
23	火	冬季セミナー(～12/26)	
24	水		
25	木		
26	金	仕事納め	
27	土		
28	日		
29	月		
30	火		
31	水		

【相田みつをの言葉】

「他人のものさし、自分のものさし、それぞれ寸法がちがうんだな」

